

作況ニュース（第3号）

水 稲

（ 発 行：令和6年6月14日 ） （ 編 集：令和6年6月12日 ）

発行：秋田県農林水産部

水 稲

茎数少なめ、浅水管理で分けつ促進

－ほ 場 の 異 常 還 元 に 注 意－

－雑草の発生状況を確認し適切な防除を－

1 今後の気象の見通し

（1）東北地方1か月予報（6月15日～7月14日）【令和6年6月13日 仙台管区气象台発表】

<予想される向こう1か月の天候>

暖かい空気に覆われやすいため、向こう1か月の気温は高いでしょう。特に期間の前半は気温がかなり高くなる見込みです。

向こう1か月の平均気温は、東北日本海側で高い確率80%です。

週別の気温は、1週目（6月15日～6月21日）は高い確率80%、2週目（6月22日～6月28日）は高い確率60%です。

○ 次回の予報発表予定： 1か月予報 毎週木曜日14時30分

【季節予報】 3か月予報 6月25日(火) 14時

https://www.jma.go.jp/jp/longfcst/102_00.html

2週間予報 毎日随時更新

<https://www.data.jma.go.jp/cpd/twoweek/?fuk=32>

2 県内の概況

（1）天候の特徴

【秋田地方气象台】

5月下旬： この期間、天気は周期的に変わり、27日から28日にかけて前線や低気圧の影響で雨となり、大雨の所があった。

旬平均気温は、低いから平年並。旬降水量は、平年並から多いが、少ない所もあった。旬間日照時間は、平年並から少ない。

6月上旬： この期間、はじめ頃と終わり頃に気圧の谷や低気圧の影響により雨となった所が多く、1日と2日は大雨となった所があった。期間の中頃は高気圧に覆われて晴れの日が多かった。

旬平均気温は、概ね平年並。旬降水量は、平年並から少ないが、多い所もあった。旬間日照時間は、少ないから平年並。

[旬統計値（秋田）]

	気温 (℃)	平年差 (℃)	階級区分	降水量 (mm)	平年比 (%)	階級区分	日照時間 (hr)	平年比 (%)	階級区分
5月下旬	16.3	-0.6	平年並	29.0	76	少ない	70.2	98	平年並
6月上旬	18.8	+0.4	平年並	25.5	108	平年並	63.2	92	平年並

(2) 本田の生育

1) 移植栽培

各地域振興局による定点調査（6月10日）では、あきたこまち（64地点）は、草丈25.3cm（平年比100%）、㎡当たり茎数124本（同84%）、葉数6.3葉（平年差+0.2葉）であった。ひとめぼれ（8地点）は、草丈27.4cm（平年比98%）、㎡当たり茎数207本（同87%）、葉数6.5葉（平年差-0.1葉）であった。（表-1）

定点調査ほの移植日の平均は、あきたこまちが平年より1日早い5月19日、ひとめぼれが平年より2日早い5月14日であった。

茎数は全県的に平年に比べ少なく、あきたこまちは県北で平年比84%、中央で同89%、県南で同82%、ひとめぼれは同87%だった。

茎数が少ない要因としては、栽植密度が低下傾向であることに加え、移植後の強風による葉先の黄化や植代枯れ、5月5半旬から6月1半旬に最高気温の低い期間があり水温や地温の上昇が緩慢だったと推定され、茎数の増加が遅れているほ場が多いことが考えられる。

表-1 定点調査結果（6月10日調査）

品種	地区	草丈			㎡当たり茎数			葉数		
		本年 (cm)	前年比 (%)	平年比 (%)	本年 (本)	前年比 (%)	平年比 (%)	本年 (葉)	前年差 (葉)	平年差 (葉)
あきたこまち	県北	25.4	97	95	144	105	84	6.4	0.3	0.1
	中央	25.6	97	100	138	92	89	6.5	0.1	0.1
	県南	25.1	105	103	102	107	82	6.0	0.5	0.2
	全県	25.3	100	100	124	103	84	6.3	0.4	0.2
ひとめぼれ	中央	27.4	99	98	207	78	87	6.5	-0.2	-0.1

※平年値：平成26年～令和5年までの過去10年平均

農試・気象感応試験において、標植区と晩植区ともに平年を上回る生育であり、特に茎数が多くなっている。分けつの初発日は、標植では平年より2日遅い5月29日だったが、浅水管理と6月2半旬の高温により、分けつの発生は順調である。

（資料編P.14、表-5、図-4）

表－２ 気象感応試験の生育状況（あきたこまち、６月10日調査）

試験区	移植日	草 丈			㎡当たり茎数			葉 数		
		本年 (cm)	前年比 (%)	平年比 (%)	本年 (本)	前年比 (%)	平年比 (%)	本年 (葉)	前年差 (葉)	平年差 (葉)
標植	5月15日	27.5	92	104	273	101	121	7.3	+0.0	+0.3
晩植	5月24日	25.8	103	113	162	169	139	6.2	+0.4	+0.2

注) 平年値は、標植はH12～R5年、晩植はH29～R5年の平均。

２）直播栽培

６月10日現在の農試及び定点の生育概況は、湛水直播のあきたこまちでは、全県平均で苗立率は62.9%、㎡当たり苗立数は97本、草丈16.3cm、㎡当たり茎数は111本、葉数は4.3葉であった。平年に比べて、苗立数は並、㎡当たり茎数は少なく、草丈は並、葉数も並であった。（表－３）

表－３ 定点調査結果（湛水土中条播、あきたこまち、農試および農業振興普及課調査 6月10日調査）

設置場所	播種月日 (月/日)	出芽率(%)		苗立率 (%)	苗立数			草丈			㎡当たり茎数			葉数		
		播種 10日後	播種 20日後		本年 (本/㎡)	前年比 (%)	平年比 (%)	本年 (cm)	前年比 (%)	平年比 (%)	本年 (本)	前年比 (%)	平年比 (%)	本年 (葉)	前年差	平年差
農試	5/10	11.0	58.7	58.7	83	95	97	19.1	106	110	97	112	75	4.4	+0.4	+0.2
大館市	5/11	29.3	66.9	66.9	112	97	112	16.3	97	95	112	62	84	4.1	-0.3	+0.1
井川町	5/8	62.5	65.9	62.7	96	88	94	16.0	130	104	135	75	84	4.9	+1.5	+0.6
美郷町	5/14	49.6	47.4	62.9	113	117	119	16.5	94	106	113	103	89	4.2	+0.1	+0.1
横手市	5/16	52.8	52.8	63.3	80	86	84	13.8	127	88	100	108	79	3.9	+0.9	-0.2
全県	5/11	41.0	58.3	62.9	97	96	101	16.3	111	101	111	92	82	4.3	+0.5	+0.2

*農試：出芽率・苗立率(%)=出芽数・苗立数／播種粒数（実測値）×100

その他地点：出芽率・苗立率(%)=出芽数・苗立数／播種粒数（播種量からの推定）×100

（３）病害虫の発生概況

１）斑点米カメムシ類

牧草地すくい取り調査（北秋田市、秋田市、大仙市）における越冬世代成虫の発生時期は、アカヒゲホソミドリカスミカメが５月14日、アカスジカスミカメが５月27日で、いずれも平年より12日早かった。

３ 当面の技術対策（６月中旬～下旬）

活着と初期生育には場間差がみられ、茎数は平年より少ないほ場が多い。前年、前々年の主な作柄低下要因である穂数不足にならないように、また県産米の品質や生産の安定には強勢茎主体の穂数確保が重要であることから、６月下旬までに有効茎を確保できるよう、各ほ場の生育状況に応じたきめ細かな栽培管理を行う。

６月２半旬以降は高温で経過しており、また今後も気温が高い予報であることから、茎数確保のための基本技術のほか、病害虫防除や雑草防除を適切に実施する。

（１）水管理

分げつ発生が少なく、茎数の不足しているほ場が多いことから、浅水管理を徹底して分げつの発生を促進する。また、水温と地温を高めて日較差を大きくするため、かん水は水温の低い早朝に短時間で行う。中苗の移植栽培では第３号から第６号までの

1次分げつ、直播栽培では第1号から第4号までの1次分げつを確保する。

また5月中旬の高温期間に移植したほ場を中心に、藻類の発生や表層はく離、ワキなどの土壌の異常還元がみられるほ場が多くなっている。今後も高温が予想されることから還元しやすいほ場や既に異常還元しているほ場では、短期間の落水や水の入れ替えを行い、水稻生育への影響を低減する。

目標茎数を確保したら、中干しを開始し、新たな分げつを抑制する。なお、落水しにくいほ場や異常還元が生じているほ場は、中干しに併せて溝切り等を行い、速やかな排水を図る。

(2) 直播栽培の追肥

目標の苗立数（ m^2 当たり80～100本）が確保できていれば2～4葉期の追肥は必要ないが、 m^2 当たり苗立数が60本以下の場合は10a当たり窒素成分で2kg以下の追肥を行う。5葉期以降の追肥は倒伏を招くので行わない。

(3) 余り苗の処分

余り苗で発生したいもち病は、周辺ほ場への強力な伝染源となるので、余り苗は土中に埋めるなどして直ちに処分する。

(4) 葉いもち防除

移植栽培での葉いもちの全般発生開始期は平年で7月6日であるが、全般発生開始期が早まると葉いもちや穂いもちが多くなる傾向がある。葉いもち防除のための水面施用剤は初期の発病を抑えることで葉いもちの発生量を少なくするので、側条施用剤や育苗箱施用剤を使用していない場合は、遅くとも6月18日までにオリゼメート粒剤（2kg/10a）かルーチン粒剤（1kg/10a）を水面施用する。

直播栽培では移植栽培に比べて葉いもちの全般発生開始期が遅れる傾向があるため、葉いもちに効果のある種子塗沫剤を処理していない場合や、播種時に側条施用剤等を使用していない場合は、6月23日頃（6月20～25日）にオリゼメート粒剤（2kg/10a）かルーチン粒剤（1kg/10a）を水面施用する。

（令和6年度版秋田県農作物病害虫・雑草防除基準（以下、防除基準）p.23～25、41～42参照）

(5) 初期害虫の防除

移植日の遅いほ場や直播栽培では生育量が小さいため、イネヒメハモグリバエ（イネミギワバエ）、イネミズゾウムシ等の初期害虫による食害がイネの生育を抑制することがある。害虫の発生状況をよく観察し、必要に応じて防除を実施する。（防除基準p.30～36、43～44参照）

(6) ばか苗病の対策

採種ほ周辺ほ場では、ばか苗病を発見したら直ちに株ごと土中に埋めて処分する。発病株の処分は遅くとも6月末までに終える。

(7) 斑点米カメムシ類の増殖を抑える雑草管理

主要加害種であるアカスジカスミカメは、水田内のホタルイ類等のカヤツリグサ科雑草やノビエの穂に産卵し増殖するので、下記(9)を参照し、水田内の除草に努める。

また、農道・畦畔などのイネ科雑草でも増殖することから、農道・畦畔や法面、休耕田等の雑草地は、地域でまとまって一斉に除草し、斑点米カメムシ類の密度低下を図る。(防除基準p. 37～39参照)

(8) 表層剥離・藻類等の防除

表層剥離やアオミドロ等の発生が多くなると地温や水温が低下し、生育が抑制されるので適切な対策を講ずる。対策としては、気温の低い早朝や雨の日の水の入替えを基本とする。移植栽培では、水管理で十分な効果が見られない場合は、中耕機による攪拌やモグトン粒剤(ACN剤)を散布する。

(9) 中・後期除草剤の適正使用

中・後期剤の使用にあたっては、ほ場の発生草種や生育程度を観察して、それぞれの雑草に除草効果の高い剤を選択する。用水確保が難しいほ場では茎葉散布剤の使用など、ほ場条件に合わせて防除する。

1) 移植栽培

- ①ノビエのみ見られる場合は、ヒエクリーン1キロ粒剤／ワンステージ1キロ粒剤、ヒエクッパエース1キロ粒剤／スケダチエース1キロ粒剤、クリンチャー剤のいずれかを散布する。ヒエクリーン1キロ粒剤／ワンステージ1キロ粒剤、ヒエクッパエース1キロ粒剤／スケダチエース1キロ粒剤の使用時期はノビエ4葉期までだが、効果発現に日数を多く要するので早めに散布する。クリンチャー剤は粒剤、ジヤンボ剤、液剤によって使用時期や使用量が異なる。また、クリンチャー剤は散布後に発生したノビエには効果がない。
- ②ノビエ及びその他の難防除雑草が見られる場合は、アトトリ豆つぶ250、レブラス1キロ粒剤、クリンチャーバスME液剤、ワイドアタックSC、フォローアップ1キロ粒剤／ワイドアタックD1キロ粒剤で対応する。(防除基準p. 318～322参照)

2) 直播栽培

- ①ノビエのみ見られる場合は、クリンチャー剤、ヒエクリーン1キロ粒剤／ワンステージ1キロ粒剤のいずれかを散布する。
- ②ノビエ以外の難防除雑草(ホタルイ類、コナギ、オモダカ等)が主に見られる場合は、バサグラン液剤を散布する。
- ③ノビエ及び難防除雑草が見られる場合は、ザーベックスDX1キロ粒剤、クリンチャーバスME液剤、ワイドアタックSCを散布する。
(防除基準p. 323～327、p. 334～335参照)

(10) 農薬の飛散・流出防止の徹底

農薬を散布する場合は、周辺作物への飛散防止対策を徹底する。

また、除草剤や水面施用剤の散布後 7 日間は落水、かけ流しをしない。

(11) 農作業安全対策の徹底

次の注意事項を守り、十分な安全対策を講ずる。また、これから気温が高くなる時期を迎えるため、こまめな水分補給や休憩を取るなど、農作業中の熱中症対策を行う。

- ①体調管理を万全にし、心身とも健康な状態で作業を実施する。
- ②作業は計画的に実施し、長時間や夜間の作業は避ける。
- ③運行する道路やほ場の危険箇所を確認する。
- ④点検・修理はエンジンを停止して行う。
- ⑤機械の点検・整備を徹底する。
- ⑥軽トラック、トラクタ運転時のシートベルトの着用を徹底する。
- ⑦日中の気温の高い時間帯を外して作業する。
- ⑧帽子や送風機、スポットクーラー等の熱中症予防グッズを活用する。
- ⑨単独作業は避け、声かけ等により体調に異常がないか確認しながら作業を行う。

【時期別・主要作業別指導事項】

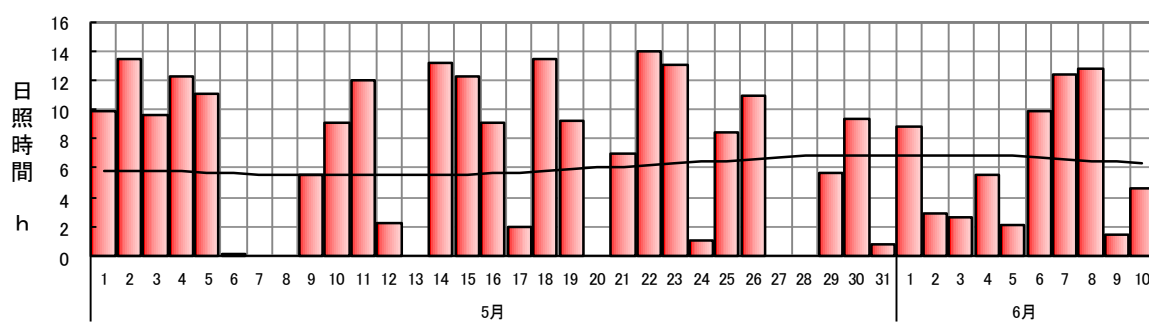
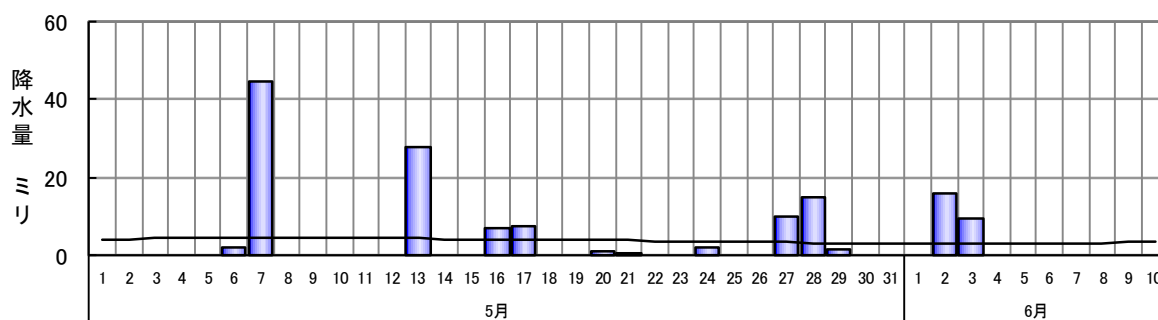
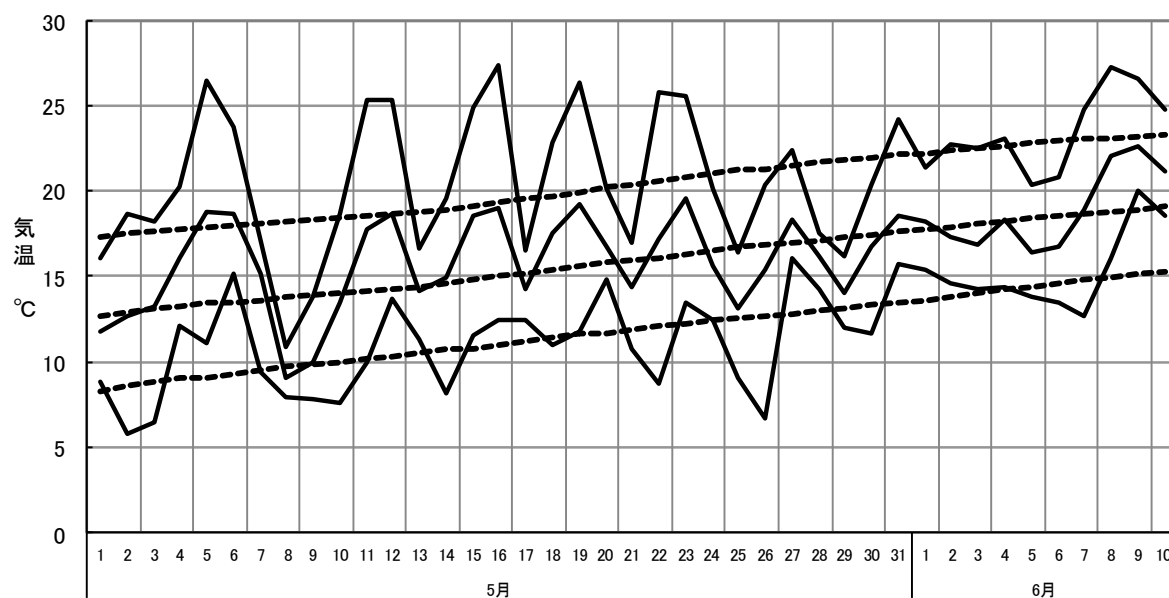
月 旬	作業の種類	主 な 指 導 事 項
6 月中旬 ～ 6 月下旬	水管理	○ 浅水管理の徹底により分けつの確保に努める。 ○ かん水は早朝に行い、短時間で終わるようにする。 ○ 目標茎数を確保したら、中干しで分けつを抑制する。 ○ 落水しにくいほ場や異常還元ほ場では、中干しに併せて溝切り等を行い、排水を図る。
	直播栽培の追肥	○ 苗立数が60本/㎡以下の場合は、4 葉期までに10a当たり窒素成分で2 kg以下の追肥を行う。
	余り苗の処分	○ 余り苗にいもち病が発生すると強力な伝染源となるので、余り苗は、土中へ埋めるなどして直ちに処分する。
	葉いもち防除	○ 移植栽培で側条施用剤や育苗箱施用剤を使用していない場合は、遅くとも6月18日までにオリゼメート粒剤かルーチン粒剤を散布する。 ○ 直播栽培では、播種前や播種時に防除剤を使用していない場合は、6月23日頃（6月20～25日）にオリゼメート粒剤かルーチン粒剤を散布する。
	初期害虫の防除	○ 害虫の発生状況をよく観察し、必要に応じて防除を実施する。
	畦畔等雑草の管理	○ 斑点米カメムシ類の増殖を抑える（密度低下）ため、草刈りなど雑草管理は地域でまとまって行う。
	表層剥離・藻類等の防除	○ 水の入れ替え等に対応する。 ○ 移植栽培では必要に応じて中耕機による攪拌やモゲトン粒剤（ACN剤）を散布する。
	中・後期除草剤の適正使用	○ 湛水管理が難しい場合は、茎葉散布剤で防除する。 ○ ノビエが見られる場合は、ヒエクリーン1キロ粒剤／ワンステージ1キロ粒剤、ヒエクッパエース1キロ粒剤／スケダチエース1キロ粒剤、クリンチャー剤のいずれかを散布する。 ○ ノビエ及びその他の難防除雑草が見られる場合は、レブラス1キロ粒剤、クリンチャーバスME液剤、ワイドアタックSC等に対応する。
	ばか苗病の対策	○ 採種ほ周辺ほ場では、ばか苗病を発見したら直ちに株ごと抜き取って土中に埋めて処分する。 ○ 発病株の処分は遅くとも6月末までに終わる。
	農薬飛散・流出防止	○ 農薬を散布する場合は、周辺作物への飛散防止対策を徹底する。また、除草剤や水面施用剤の散布後7日間は落水、かけ流しをしない。

資 料 編

1 気象経過

(1) 令和6年5月1日から6月10日の気象経過図(観測地点：秋田地方気象台)

(資料 秋田地方気象台)



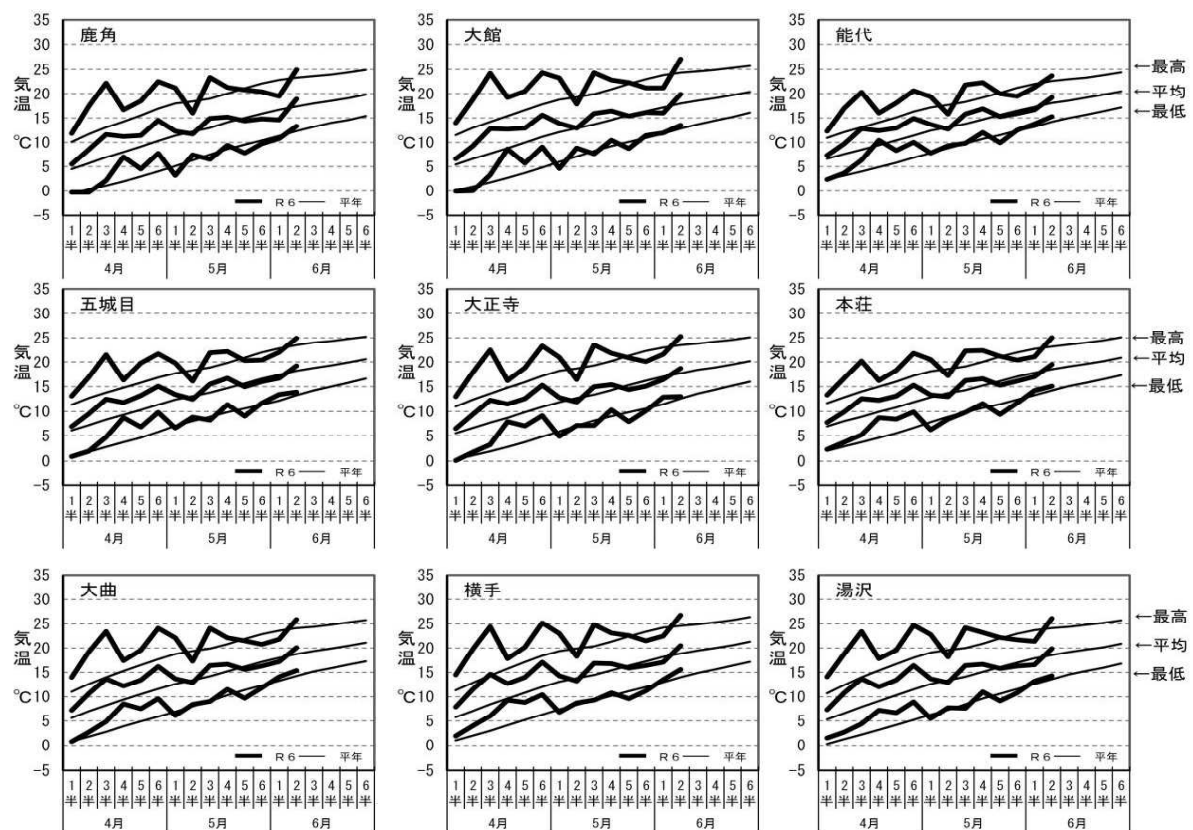
(2) 旬別気象状況 (秋田市)

(資料 秋田地方気象台)

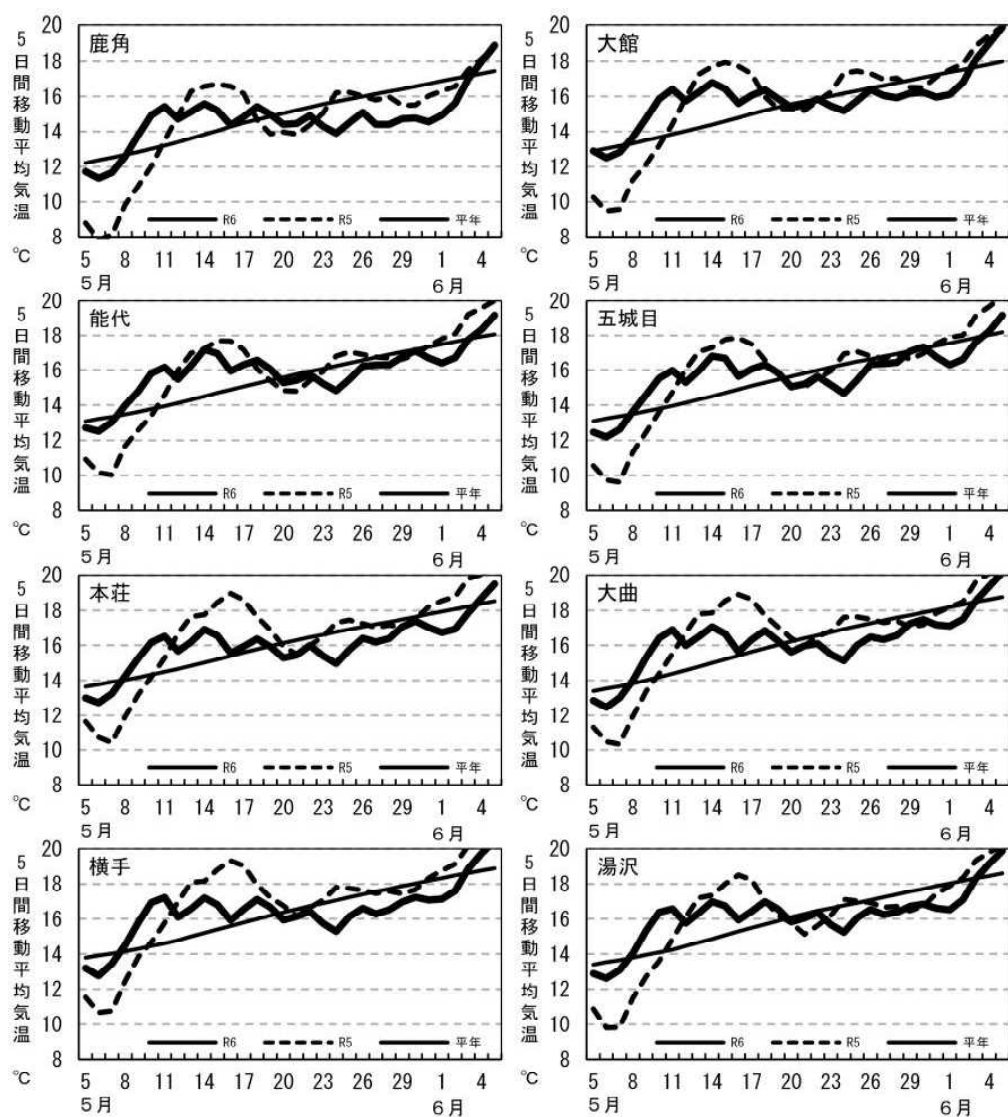
時 期 項 目	5 月上旬		5 月中旬		5 月下旬		5 月 計	
	本 年	平年比較	本 年	平年比較	本 年	平年比較	本 年	平年比較
平均気温(℃)	13.9	+0.3	17.0	+2.2	16.3	-0.6	15.8	+0.6
降 水 量(mm)	46.5	104%	43.0	103%	29.0	76%	118.5	95%
日照時間(h)	71.2	124%	73.6	132%	70.2	98%	215.0	116%

時 期 項 目	6 月上旬	
	本 年	平年比較
平均気温(℃)	18.8	+0.4
降 水 量(mm)	25.5	108%
日照時間(h)	63.2	92%

(3) 各地域の気象経過



図－1 各地域の気温の推移(半旬別、アメダス観測地点別、6月10日現在)



図ー2 各地域の5日間移動平均気温の推移(アメダス観測地点別、5月5日～6月5日まで)

2 農作業進捗調査結果（各地域振興局調査）

区分	地域	始期（5%）			盛期（50%）			終期（95%）		
		本年	前年	平年	本年	前年	平年	本年	前年	平年
田植作業	県北	5/14	5/12	5/14	5/21	5/20	5/21	5/29	5/29	5/28
	中央	5/9	5/9	5/10	5/18	5/18	5/19	5/30	5/29	5/29
	県南	5/16	5/16	5/17	5/24	5/23	5/24	6/2	5/30	5/31
	全県	5/12	5/11	5/12	5/22	5/21	5/22	5/31	5/29	5/30

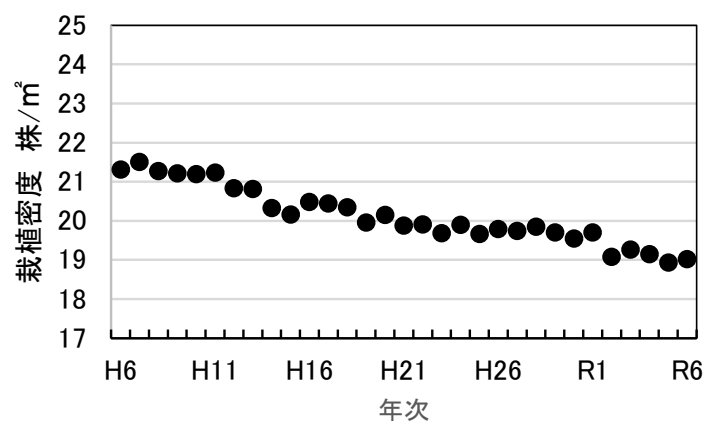
3 水稻定点調査結果（各地域振興局 6 月10日調査）

表－1 定点調査結果（品種：あきたこまち）

地域 振興局	調査点数	草丈			㎡当たり茎数			葉数		
		本年 (cm)	前年比 (%)	平年比 (%)	本年 (本)	前年比 (%)	平年比 (%)	本年 (葉)	前年差 (葉)	平年差 (葉)
鹿 角	5	25.3	105	97	126	104	70	6.5	0.3	0.2
北秋田	9	25.7	95	94	166	106	88	6.5	0.3	0.1
山 本	9	25.3	96	95	132	104	88	6.3	0.2	0.0
秋 田	10	25.4	94	97	141	88	87	6.7	0.1	0.2
由 利	2	26.8	115	117	122	118	103	5.8	0.5	0.2
仙 北	10	25.5	105	102	122	115	85	6.1	0.3	0.2
平 鹿	11	23.5	103	101	82	94	76	5.7	0.5	0.1
雄 勝	8	26.6	107	106	104	111	86	6.3	0.6	0.4
全県平均	64	25.3	100	100	124	103	84	6.3	0.4	0.2
6月10日の 理想生育量		目標	下限	上限	目標	下限	上限	目標	下限	上限
	県北	24	23	26	159	140	179	6.2	5.9	6.4
	中央	25	23	27	174	145	204	6.3	6.0	6.6
	県南	24	23	25	125	113	138	5.8	5.6	6.0

表－2 定点調査結果（品種：ひとめぼれ）

地域 振興局	調査点数	草丈			㎡当たり茎数			葉数		
		本年 (cm)	前年比 (%)	平年比 (%)	本年 (本)	前年比 (%)	平年比 (%)	本年 (葉)	前年差 (葉)	平年差 (葉)
秋田	2	25.2	93	96	193	67	79	6.5	-0.4	0.1
由利	6	28.2	101	99	212	83	89	6.5	-0.1	-0.2
中央地区平均	8	27.4	99	98	207	78	87	6.5	-0.2	-0.1



図－3 定点調査ほ（あきたこまち）の平均栽植密度の推移

4 関連成績

(1) 気象感応試験（あきたこまち）

1) 生育概況

標植区は、草丈が27.5cm（平年比104%）で平年並、㎡当たり茎数は273本（同121%）でかなり多く、葉数は7.3葉（平年差+0.3葉）で多かった。晩植区は、草丈は25.8cm（平年比113%）と長く、㎡当たり茎数は162本（平年比139%）でかなり多く、葉数は6.2葉（平年差+0.2葉）でやや多かった。

5月5半旬～6月1半旬の最高気温が平年を下回り、標植区の初期生育や晩植区の活着は緩慢だったものの、6月2半旬の高温により、旺盛な生育になっている。

表－3 気象感応試験の生育状況（6月10日調査）

試験区	移植日	草 丈					㎡当たり茎数					葉 数				
		本年 cm	前年 cm	前年比 %	平年	平年比 %	本年 本	前年	前年比 %	平年	平年比 %	本年 葉	前年	前年差 葉	平年	平年差 葉
標植	5月15日	27.5	30.0	92	26.5	104	273	270	101	225	121	7.3	7.3	0.0	7.0	0.3
晩植	5月24日	25.8	25.1	103	22.8	113	162	96	169	116	139	6.2	5.8	0.4	6.0	0.2

注) 平年値は、標植はH12～R5年、晩植はH29～R5年の平均。

標植区と晩植区とも、6月1半旬までは平年並の出葉だったが、6月2半旬の高温により、出葉は平年より早くなっている。

表－4 出葉状況（6月10日調査）

試験区	年次	出葉期								
		5葉	6葉	7葉	8葉	9葉	10葉	11葉	12葉	13葉
標植 (5月15日移植 基準)	R6	5/23	5/29	6/4	6/9					
	R5	5/20	5/25	6/1	6/8	6/13	6/19	6/28	7/8	7/14
	平年	5/23	5/29	6/4	6/10	6/16	6/22	7/1	7/10	7/17
	平年差	±0	±0	±0	-1					
晩植 (5月25日移植 基準)	R6	5/31	6/5	6/10						
	R5	6/1	6/5	6/10	6/15	6/20	6/26	7/5	7/15	7/23
	平年	5/31	6/5	6/11	6/16	6/22	6/27	7/5	7/14	7/21
	平年差	±0	±0	-1						

注: 標植の平年値は、H12～R5までの平均。晩植の平年値は、H29～R5年までの平均。

移植時葉数の平年値は標植は3.4葉、晩植は3.5葉。本年は標植は3.5葉、晩植は3.8葉。

2) 分げつの発生状況（6月10日調査）

標植区における分げつの初発生は5月29日で平年より2日遅く、次節位別の発生では、1次2号分げつが10個体当たり1本（平年2本）、1次3号分げつが6本（同7本）と平年並に経過している。

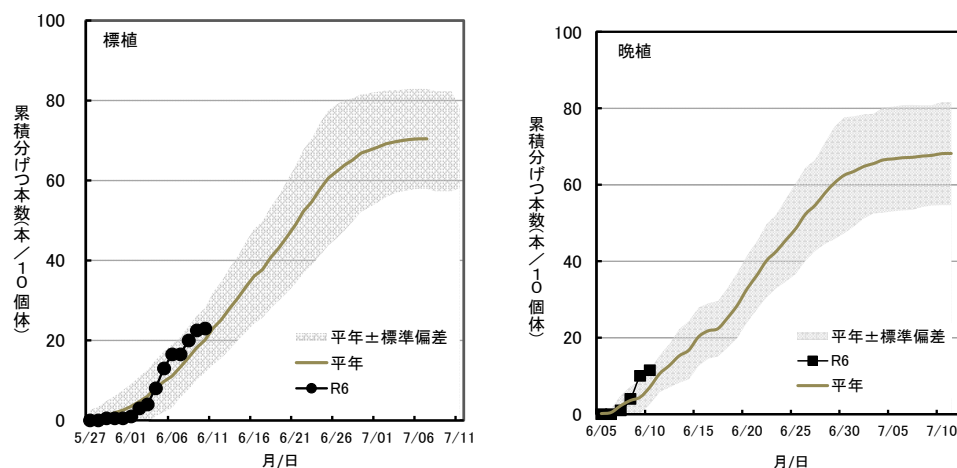
5月25日移植の晩植区では、分げつの初発生は6月7日で平年並であり、6月9日以降は平年をやや上回って経過している。

表－5 次節位別分げつの発生本数（6月10日現在）

		1次分げつ						2次分げつ		分げつ 合計
		1号	2号	3号	4号	5号	6号	2号	3号	
標植	R6	0	1	6	10	7		0	0	24
	平年	0	2	7	9	10	10	1	8	72
晩植	R6	0	1	5	6			0	0	12
	平年	0	2	6	10	10	10	1	7	72

注1) 四捨五入の関係により 各分げつの合計と“分げつ合計”は必ずしも一致しない。

注2) 平年：標植はH13～R5年までの最終発生数の平均、晩植はH29～R5年までの最終発生数の平均

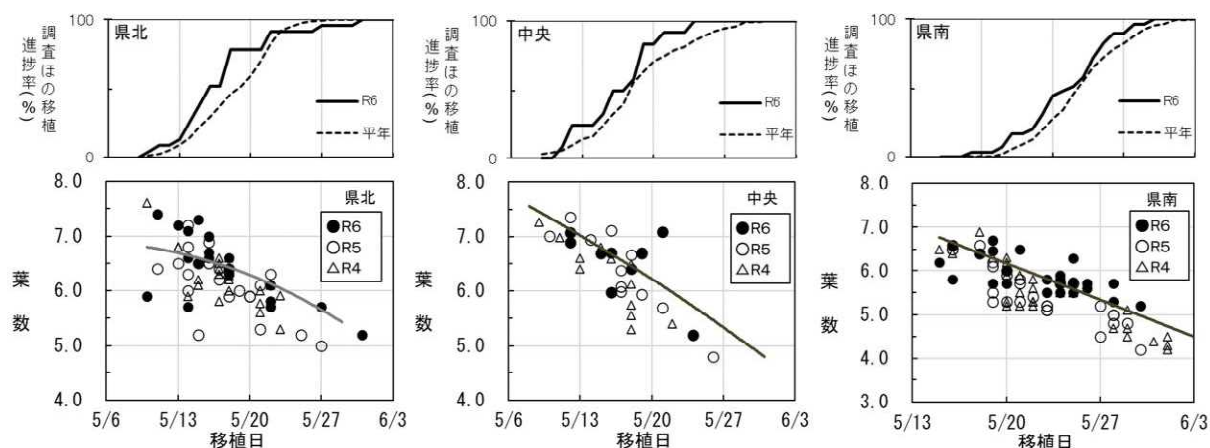


図－4 分げつの発生状況（6月10日現在）

3) 定点（あきたこまち）の生育状況

調査ほ場における移植の進捗は、各地域とも平年より早く進む傾向だった。また6月10日現在の葉数は、各地区の平年差で+0.1～+0.2葉との調査結果から、概ね平年並の出葉と捉える。しかし、県北ではほ場間差が大きく、早い移植日でも平年を下回るほ場が見られる。

5月5半旬から6月1半旬は最高気温が低いなどの不順な気象経過だったが、概ね前年、前々年より葉数は順調に進んでいる。

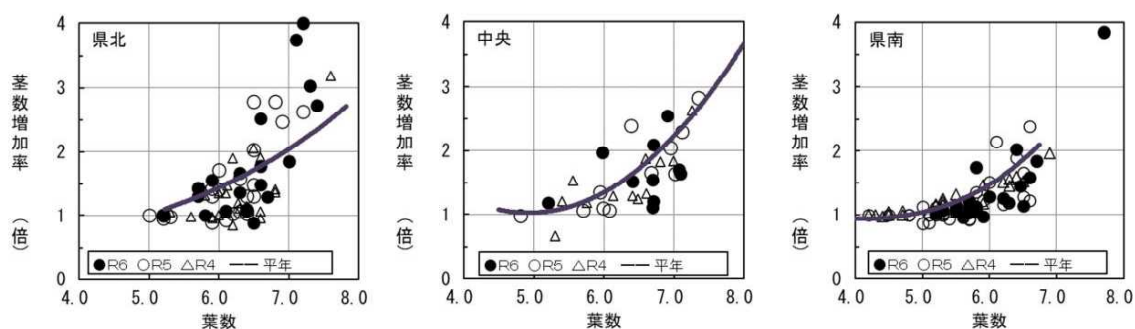


図－5 調査ほ場の移植進捗率(上段)および移植日と葉数の関係(下段)

(あきたこまち、6月10日定点調査、平年はH26～R5の平均を近似線で平準化して表示)

調査ほ場の葉数と茎数増加率の関係は、県北では7.0葉前後のほ場で順調な茎数増加が見られる。しかし6.5葉以下のほ場では、前年、前々年並に平年より低い茎数増加率になっている。中央では平年を上回るほ場がある一方、6.5葉以上で茎数増加率2.0未満のほ場が見られる。県南は、移植時期が遅いため6.0葉未満のほ場が多く、茎数増加率も低い。しかし6葉以上のほ場で前年や前々年と同じく、茎数増加率の低いほ場が見られる。

5月5半旬から6月1半旬の低温気味の気象経過により、分げつの発生は停滞したと推定される。6月2半旬は高温に転じたことにより、分げつ発生回復が期待されることから、適切な水管理に努め、茎数確保を優先する。



図－6 葉数と茎数増加率の関係

(あきたこまち、6月10日定点調査、平年はH26～R5の平均を近似線で平準化して表示)

茎数増加率＝茎数÷植え付け本数

(注: 中苗の場合、主茎第6葉伸展中(5.1～6.0葉)に3号分げつ(以下3号)、主茎第7葉伸展中(6.1～7.0葉)に4号分げつ(以下4号)が発生。植え込み本数に対して3号のみが全主茎に発生した場合、茎数増加率は2。さらに4号が完全に発生した場合の茎数増加率は3になる。)

(2) 直播作況試験

1) 直播水稻の出芽・苗立

農業試験場の㎡当たり播種粒数は142粒（平年140粒）であった。苗立率は58.7%で、平年差-2.7ポイントと平年よりもやや低くなった。㎡当たり苗立数は83本となり平年よりもやや少なくなった。（表－6）

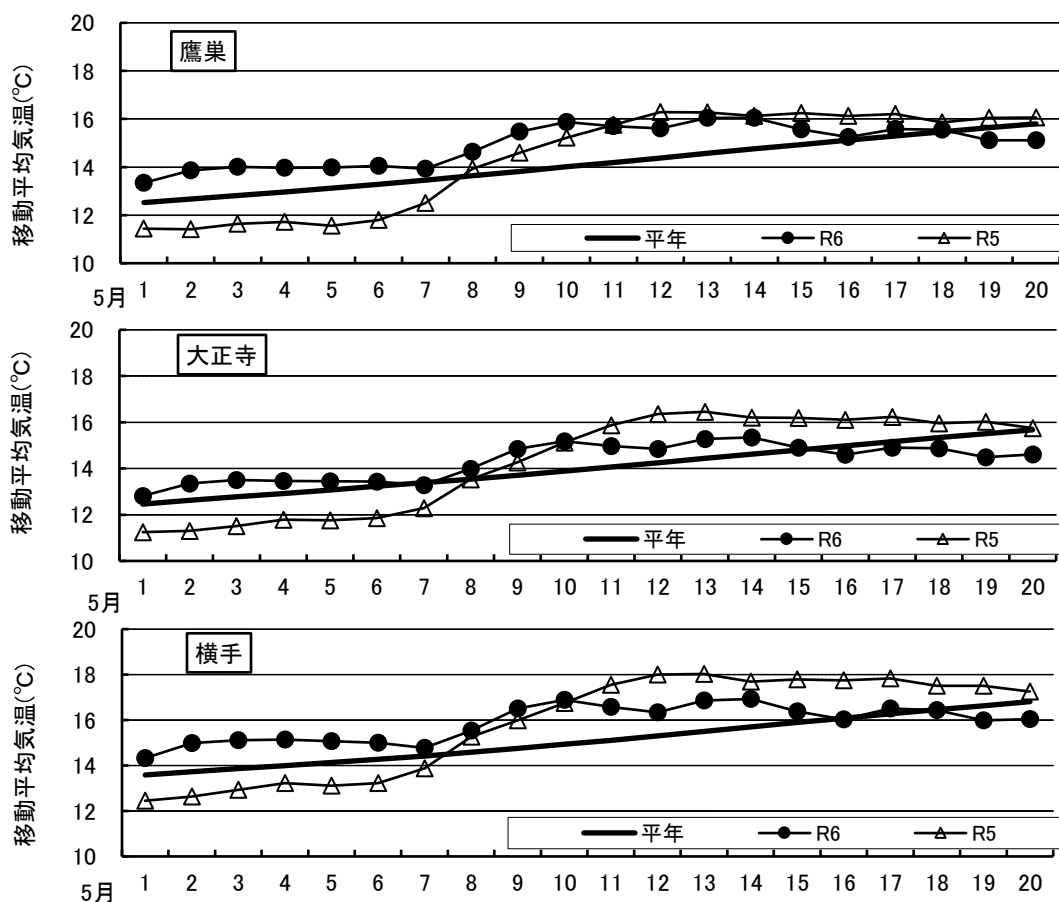
本年の移動平均気温は5月18日までは概ね平年よりも高く経過したが、5月19日、5月20日の両日は低く経過した。（図－7）

播種後、出芽始期（出芽率10%に達した日）までは10日（平年差＋2日）、播種から出芽揃期（苗立数の90%が出芽した日）までは17日（同＋4日）と、出芽始期、出芽揃期ともに平年よりも遅くなった。（図－8、9）

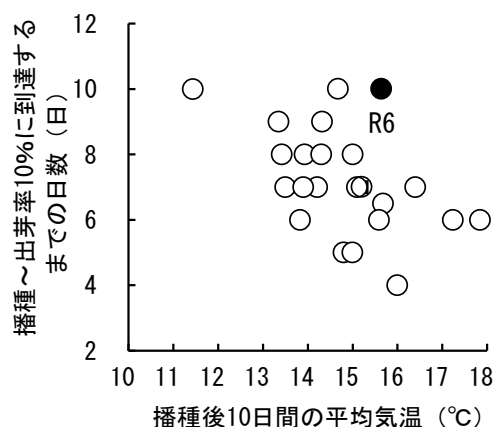
表－6 農試直播作柄解析ほ場の苗立（あきたこまち、湛水土中条播、6月10日調査）

播種 月日	苗立率			㎡当たり苗立数		
	本年 (%)	前年差	平年差	本年 (本)	前年比 (%)	平年比 (%)
5/10	58.7	+8.4	-2.7	83	95	97

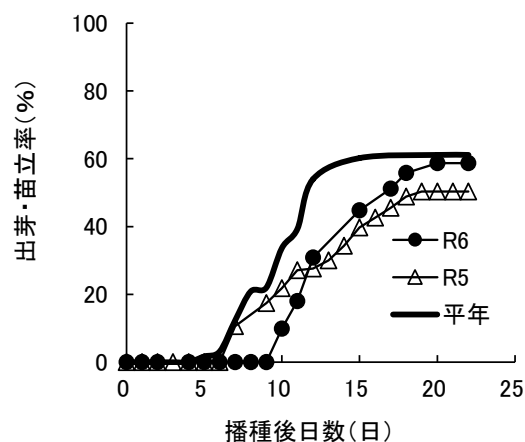
注）平年値：過去10年間（H26～R5）の平均値



図－7 播種翌日から10日間の移動平均気温（アメダスデータ）



図－8 播種後10日間の平均気温と
出芽率の関係（H14～R6年）



図－9 出芽・苗立率の推移

注）平年値：過去10年間（H26～R5年）の平均値

2) 直播水稻の生育概況（6月10日現在）

6月10日調査の生育状況は、草丈19.1cm（平年比110%）、 m^2 当たり茎数は97本（平年比75%）、茎数増加比は1.1（平年差－0.3）、葉数は4.4葉（平年差＋0.2葉）であった。（表－7）

本年の農業試験場における直播水稻の生育は、平年と比較して葉数は平年並、草丈は平年よりも長かったが、茎数増加が少なく、 m^2 当たり茎数は少なかった。

表－7 農試直播作況ほ場の生育概況（あきたこまち、湛水土中条播、5月10日播種、6月10日調査）

調査 月日	草丈			m^2 当たり茎数			茎数増加比			葉数		
	本年 (cm)	前年比 (%)	平年比 (%)	本年 (本)	前年比 (%)	平年比 (%)	本年	前年差	平年差	本年 (葉)	前年 差 (葉)	平年差 (葉)
6/10	19.1	106	110	97	112	75	1.1	+0.1	-0.3	4.4	+0.4	+0.2

注1）平年値：過去10年間（H26～R5）の平均値

注2）茎数増加比＝茎数/苗立数

注3）苗立数は6月10日現在で m^2 当たり83本（平年比97%）

各地域における技術情報等のお知らせ

各地域における技術情報等についての問い合わせは、最寄りの地域振興局農林部農業振興普及課に電話またはFAXをお願いします。

各地域振興局	電話番号	FAX番号
鹿 角 地域振興局農林部農業振興普及課	0186-23-3683	0186-23-7069
北秋田 地域振興局農林部農業振興普及課	0186-62-1835	0186-63-0705
山 本 地域振興局農林部農業振興普及課	0185-52-1241	0185-54-8001
秋 田 地域振興局農林部農業振興普及課	018-860-3410	018-860-3363
由 利 地域振興局農林部農業振興普及課	0184-22-8354	0184-22-6974
仙 北 地域振興局農林部農業振興普及課	0187-63-6110	0187-63-6104
平 鹿 地域振興局農林部農業振興普及課	0182-32-1805	0182-33-2352
雄 勝 地域振興局農林部農業振興普及課	0183-73-5114	0183-72-6897

OSNS（ソーシャルネットワーキングサービス）LINEで情報発信を行っています

秋田県稲作技術情報

「秋田の米ぢから」



水稻栽培に関する情報をリアルタイムで発信しています。

<主な配信内容>

- ・ 秋田県内の水稻の生育状況
- ・ 水稻および大豆の技術情報
- ・ 異常気象対策
- ・ その他、秋田米に関する情報



こちらのQRコードから
登録できます

記事についてのお問い合わせは

秋田県農業試験場

作物部

生産環境部

TEL 018-881-3330

内線(422・423・424)

内線(306・310)

秋田県病害虫防除所

TEL 018-881-3660

秋田地方气象台

TEL 018-864-3955

東北農政局秋田県拠点 統計チーム

TEL 018-895-7303

秋田県農林水産部水田総合利用課（農産・複合推進チーム）

TEL 018-860-1786

園芸振興課（調整・普及チーム）

TEL 018-860-1801

【次回の発行日は6月28日（金）の予定です】